

# UGGブーツ職人に聞く

世界各国で現在も高い人気を誇る UGG ブーツ。その素材であるシープスキンに精通する職人、Michael Smith さんにお話を伺いました。

**Q** この仕事に就いて何年くらいですか？

**A** 学校を卒業して、すぐにこの仕事に就きました。もう 27 年になりますね。

**Q** 一日でどのくらいの UGG ブーツを作っていますか？

**A** 平均で 70 足程度です。ただ、ジッパー付きのブーツや、特殊な形の物を作る時は手間がかかるので、一日 8 足程度が限界ですね。冬の 3 月から 10 月は朝から晩まで各セクションでスタッフ全員がフル稼働です。夏のシーズンは、接客に少し時間がかけられます。

**Q** デザインも自分でされているのですか？

**A** 自分でもデザインをしますし、オーダーメイドでお客様と相談しながら作ったりもします。一番人気のスタンダードなものは、昔からの型を使っています。

**Q** 製造工程で一番難しいところはどこですか？

**A** 革の一枚一枚に違う固さや形、色などの特徴があるの



**Michael Smith さん**

革職人。フリーマントルにアトリエのような工場を持ち、手作業にこだわり、昔ながらの製法で、UGG ブーツやその他のシープスキン製品を作り続けている。製品を使う人のことを一番に考え、細かな部分にも気遣いを忘れない。

で、どの辺りの皮を、ブーツのどの部分に使うのが適正なのかを見分けなくてはなりません。毛並みの流れにも気を使いますね。

**Q** ご自身が作られる製品の特徴は？

**A** 全ての工程に、手を使って作るということです。1 足のブーツを作るために、細分化すると 21 回もの工程があります。製品を知り尽くしているので、販売の時もお客さんに的確なアドバイスができます。

**Q** 商品を選ぶ際の注意点は？

**A** 中のソール部分を触って、かかとの部分に十分な厚さがあるものを選んで下さい。一番体重がかかる部分なので、ここに十分な厚みがないとすぐに潰れてしまいます。当店では、約 16mm を基準にしています。また、ブーツを選ぶ際は少し小さいサイズを選びましょう。お店で履いて少しきついと思っても、履き続けるうちに革はすぐになじんで、ピッタリのサイズになります。

## コラム

# UGGブーツの秘密

UGG ブーツの「UGG」は、ブランド名だと思っている人も多いいかもしれませんが、実は羊の毛皮を使ったブーツを総称して UGG ブーツと言います。UGG ブーツの起源は諸説ありますが、オーストラリアで羊毛刈りをする人たちが、毛皮を使って無造作に ugly (不恰好) なブーツを作ったのが始まりだとの説があります。その後、軽くて温かい機能的なブーツを、ここパースのサーファーたちが海から上がった際に冷えた足を温めるために使用し、世界的に流行し出したとの説も

あります。ヨーロッパや日本などでは、「UGG Australia」というブランドを持った米国のデッカーズ社が「UGG」を商標登録したため、他の UGG ブーツメーカーは、「UGG」という文字を商品に使えなくなってしまいました。また、デッカーズ社はここオーストラリアでも商標登録を試みましたが、オーストラリア国内に多数ある UGG ブーツブランドから反発を買い、裁判で敗訴しました。そのため、オーストラリア国内では「UGG」と言えばシープスキンを使ったブーツの総称であり、国外ではデッカーズ社の「UGG Australia」というブランドを指すこととなります。もちろん、ひとつひとつ丁寧に作られたオーストラリア産 UGG ブーツも正規品と呼べます。